

救急処置実習 C-I		実習	准教授 古川 慎太郎 講師 田口 弘茂
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391304

1. 授業のねらい・概要

消防機関における臨地実習を通じて、出場指令から出場までの対応をはじめ、緊急走行、現場到着時の安全管理、各種救急事故現場での救急隊員の活動、指示要請等の救急無線運用、傷病者・家族関係者との接遇、医療機関選定及び医師への引き継ぎ等の対応要領など、救急業務の専門性について理解するとともに、事前事後教養を通じて救急活動に必要な知識・技術の修得を図る。また、自らが目指す救急救命士像を考えるきっかけとする。

2. 授業の進め方

消防実習に臨むにあたり、事前に基礎知識を修得するための座学・実習を行う。これにより消防実習に参加する上で最低限の能力を有していると認めた学生に限り、実習先の消防機関を割り当て臨地実習を行う。

3. 授業計画

1. 同乗実習における注意事項 同乗実習を行うにあたり、身なり・態度・必要な知識と技術について理解する。 2. 引き継ぎ要領と車両・資器材の点検要領 引き継ぎ要領、体調状態の把握、資器材点検要領（個数の把握と補充）についての理解を深める。 3. 救急活動の実態 救急事案で挙げられる事故種別の種類とその実数についての理解を深める。 4. 出場指令時の対応要領 出場指令の受け取り方法、指令内容の把握、事故現場までの経路について理解を深める。 5. 救急出場時の対応 乗車位置、車両内に積んでいる救急資器材の確認、赤色灯やサイレンの調整について理解を深める。 6. 救急出場時の確認事項 緊急走行に伴う道路状況や走行路の確保について理解を深める。 7. 救急無線運用 傷病者情報（受傷機転・人数・傷病程度の把握）や応援隊の有無の確認方法について理解を深める。 8. 診療情報システム 受け入れ病院の受診体制の把握について理解する。 9. 緊急車両の要件 公安委員会が定める緊急走行についての法律や体制について理解を深める。 10. 出場途上の措置 傷病者情報（受傷機転・人数・傷病程度の把握）に関する追加情報について理解する。 11. 救急車の交通事故防止対策 緊急走行に伴う交通事故防止対策について理解を深める。 12. 現場到着時の措置	16. ストレッチャーへの傷病者収容 ストレッチャーの構造や操作方法について知り、傷病者収容についての理解を深める。 17. ストレッチャー曳航要領 ストレッチャーの構造や操作方法に関する知識を基に、曳航要領について理解を深める。 18. 傷病者車内収容 ストレッチャーの構造、操作方法や曳航要領に関する知識を基に、傷病者を緊急車両内に収容することについて理解を深める。 19. 現場出発時の措置 緊急車両の走行中の振動について知り、振動を抑える対応について理解を深める。 20. 救急活動と接遇 傷病者、家族や関係者との接遇について理解を深める。 21. 感染防止対策 緊急車両内が吐物や薬物で汚染された場合の対応について理解を深める。 22. 傷病者の医師引き継ぎ要領 傷病者を医師に引き継ぐ場合に必要となる情報、言動について知り、救急活動記録表の必要性について理解を深める。 23. 模擬救急出場 事故の概要について理解を深める。 24. 模擬救急出場 感染防止について理解を深める。 25. 模擬救急出場 救急資器材について理解を深める。 26. 模擬救急出場 安全管理について理解を深める。 27. 模擬救急出場 多職種連携について理解を深める。
---	--

緊急車両の停車位置や安全な車両停車について理解を深める。 13. 救急現場での活動 傷病者がいる場所（急病や事故発生場所）での安全管理と維持について理解を深める。 14. 医療機関選定の原則 医療機関選定について理解を深める。 15. 転院搬送時の留意点 転院搬送の制度や手順について理解を深める。	28. 模擬救急出場 早期傷病者搬送について理解を深める。 29. 事例検討 実習でどんな事例を体験したかを振り返り, 実習で学んだことをまとめる。 30. 発表会 事例の整理やプレゼンテーションの作成を行い, 発表を行う。
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週6時間以上を要する。実技については訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト
誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。
- 3) 実技試験
 - a) フィードバックは、実技不適部分を中心に行う。
 - b) 学生から質問された疑問点は、個別に回答する。
- 4) 筆記試験
 - a) 解答は口頭で発表する。
 - b) 解説は不正解問題を中心に行う。

6. 到達目標

- 1) 緊急車両の走行について理解を深める。
- 2) 指令本部との無線連絡について理解を深める。
- 3) 傷病者及び家族関係者とのコミュニケーションについて理解を深める。
- 4) 救急救命士に要求される観察・判断・救急処置・搬送の連携について理解を深める。

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 成績評価の基準
実習に取り組む姿勢及び患者との接遇が適切に出来ている。また、経験した症例について理解している。
- 2) 成績評価の方法
 - a) 消防本部による評価（40%）
 - b) 症例レポート（40%）
 - c) 症例発表会の内容（20%）

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
5訂版 救急資器材管理マニュアル(東京法令出版)

9. 受講上の留意事項

- 1) 基本的に、当科目履修前に事前履修しておく科目として、「救急処置演習 A-I」、「蘇生処置演習」、「救急処置演習 A-II」、「外傷救急処置演習」、「解剖学」、「生理学」、「生化学」とする。

- 2) 実習を受けるにあたり必要な書類・検査を実施し、期限内に証明書を提出した学生のみ履修できる。また、実習前に行われるガイダンスの内容を十分理解した上で、「2. 授業の進め方」に示す事前教養を経た学生のみが、消防機関での実習を受けられる。ガイダンスで示す事項等を遵守できない場合、または事前教養で不適と認められた学生については、消防機関における実習は認めない。なお、消防機関における所要の実習を受けることができなかった学生については、単位認定を行わない。
- 3) 実習先消防機関より、実習態度不良や実習継続不能等についての連絡があった場合には、所要の調査を行い、実習中止措置をとるとともに単位認定を行わない。実習修了後であっても同様とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本演習は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。